

第1回「中国地方交通審議会答申」フォローアップ部会

平成18年7月14日

中国運輸局においては、平成16年8月31日、局長の諮問機関である中国地方交通審議会から、平成27年(2015年)を目標年次とした中国地方の公共交通政策及び観光政策の基本的方向性についての答申「21世紀初頭の公共交通サービスと観光振興のあり方について」を頂いております。

本答申に示された内容の実現を目指し、これまでの2年間、国の行政機関、地方自治体、交通・観光事業者、地域住民等関係者において、それぞれの立場から、答申の内容に沿った様々な取組みが鋭意なされてまいりました。

今般、答申以降に講じられた公共交通サービス及び観光振興に関する主な取組みについてフォローアップを行うとともに、ベストプラクティスの他地域への広がりを図るため、中国地方交通審議会委員長の櫛本広島大学名誉教授を部会長とし、中国地方5県、交通・観光事業者団体等にお集まりいただき、第1回中国地方交通審議会答申フォローアップ部会を開催致しました。

フォローアップ部会では、まず、中国運輸局から、答申以降に講じられた様々な取組みについて、公共交通活性化総合プログラムや観光ルネッサンス事業等の支援メニュー活用事例を中心に報告致しました。

その後、広島市、島根県邑南町及び広島電鉄の関係者より、都市部あるいは中山間地において、自らが取り組んだ改善事例の報告等を行っていただきました。

広島市からは、利用者の減少により存続が危ぶまれていた乗合タクシーについて、地域住民を中心に関係者が一体となって検討を進め、運行ルートの変更や往復割引等の改善を図ることで利用者を増加させ、今では、公的補助に頼らず運行されているという全国的にも注目されている乗合タクシーの再生事例が報告されました。

島根県邑南町からは、旅客あるいは貨物だけといった従来型の交通システムでは、需要が少ない中で採算性を維持していくことが困難であることから、デマンド型乗合タクシーを運行するとともに、旅客輸送サービスと同時に、事前に連絡された商店から商品を各戸へ運ぶという買物代行サービスを行うという実証実験が昨年度実施され、その結果が報告されました。

広島電鉄からは、広島電鉄宮島線「廿日市市役所前(平良)駅」でのホームとバス停の一体化による段差なしでの乗換え円滑化、障害者等のLRT体験試乗会の開催、ICカードの導入に向けたこれまでの取組み等が報告されました。

委員の方からは、こうした機会を通じて、先進的なベストプラクティスが紹介されることにより、これを参考として同じような取組みが他地域でも広がっ

ていけるようにすることは望ましいとのご意見等をいただきました。

中国運輸局と致しましては、今後も定期的なフォローアップを行いつつ、答申の内容を踏まえた施策を展開し、中国地方の公共交通の活性化や観光振興を的確に進めて参りたいと考えております。

また、こうしたフォローアップを通じて、ベストプラクティスが広く紹介されることで、自治体や交通事業者等における取組みがさらに進んでいくことを期待しているところです。
(企画観光部交通企画課)



櫛本部会長挨拶



取組み事例報告

(第1回「中国地方交通審議会答申」フォローアップ部会(平成18年7月14日))
[議事概要\(次ページ記載\)](#)

第１回「中国地方交通審議会答申」フォローアップ部会議事概要

日 時：平成１８年７月１４日（金）１３時３０分～１５時３０分

場 所：ホテルグランヴィア広島 ４階「悠久の間」

出席委員：櫛本部長、清水委員、藤井委員（下平地域振興チームリーダー）

山城委員、川島委員、木下委員、山田委員、寺田委員、今中委員

金原委員、山根委員、岩本委員、柳樂委員、笹倉委員、信太委員

宮崎委員（後藤広域調整第二課課長補佐）、石原委員、上場委員

山下委員（藤原交通対策課長）、中野委員（長尾交通対策課総括副参事）

樫部委員（橋本交通運輸対策室次長）、高山委員（岡村都市交通部長）、平上委員

（ ）は代理出席者

運 輸 局：神谷中国運輸局長、山本企画観光部長、高杉交通環境部長ほか

１．開 会

２．中国運輸局長挨拶

３．部会長選任

４．部会長挨拶

５．議 題

（１）中国地方において答申以降に講じられた公共交通サービス及び観光振興に関する主な取り組みについて

事務局（企画観光部交通企画課長）から「資料２」により説明

（２）自治体、交通事業者等による先進的な取り組み等について

地域住民等による地域交通の確保

～広島市郊外団地における地域主導型の乗合タクシーについて～

広島市道路交通局都市交通部 早志交通対策担当課長から「資料３」により報告

【報告概要】

・広島市郊外の丘陵地域においては、住民の高齢化が進む中、急な坂が多いにもかかわらず、路線バスが乗入れられていない、いわゆる交通不便団地が多く、自家用車が利用できない高齢者等の移動の足の確保が急務となっている。

・しかしながら、地方自治体によるコミュニティバスの運行等公共交通サービスの提供や補助には限界があるため、地域住民が自らの参加において、既存の公共交通ネットワークとの連携を図りながら、自らの生活交通としての必要なサービスについて、効率的で、かつ、地域住民のニーズを踏まえたサービスの提供を可能とする新たなシステムを確立す

る必要がある。

・こうした中、広島市安佐北区口田地区の路線バス乗り入れ困難な団地において、地域住民の要望を受けたタクシー事業者による乗合タクシーの自主運行が、平成15年8月から開始されていたが、利用状況が予想を下回る状況下で運行の継続が危ぶまれ、地域だけでは解決が困難な新たな課題等への対応が求められていた。

・そこで、地域として自立したバス運行等が可能な新たなシステムの確立に向け、平成16年6月「やぐちおもいやりタクシー活性化検討委員会」を設立し、関係者間で実験運行や乗降実態調査並びに実験運行に関する住民対象のアンケート調査などに取組み、本格運行プラン（運行経路・ダイヤ・運賃・商業施設の協賛・デマンドの導入等）を決定し、平成17年4月から本格運行開始した。以降、採算ライン（平均利用者数40人/日）を確保して推移している。

「成 果」

利用者数は増加基調で推移

地域主導型乗合タクシーに関するノウハウの蓄積、住民の意識化

都市圏郊外団地における交通問題の解決と公費負担を要しない点での財政への貢献

「成功要因」

事業者・地元住民・行政の協働による委員会組織の設立と得意分野・既存資源を活かした事業運営体制の構築

アンケート調査及び実験運行による現状分析と本格運行の経路・ダイヤ等の決定

往復券・割引券などの利用者増加策と商業施設等との連携の具体化

増客による運賃収入と、協賛広告料等の確保を併用した持続的な事業モデルの構築があげられる。

・平成17年度は、広島市安佐南区山本地区で同様の取組みを行った。広島市では、今後も他地域への展開を図っていきたいと考えている。

質疑応答

樫部委員代理 橋本山口県交通運輸対策室次長

聞きたいことはたくさんありますが、まず運行主体はNPO法人ですか。また、市はどのような支援を行って、この取り組みが始まったのですか。

広島市 早志交通対策担当課長

事業主体は既存のタクシー事業者である「やぐちタクシー」さんです。運営は公共交通活性化総合プログラムで行ったもので、広島市の支援については、費用負担として、実験運行時の赤字負担、チラシ、バス停の看板などです。

後半に紹介しました広島市安佐南区の事例（山本地区乗合タクシー）については広島市のほうで支援を行いました。あくまでも1ヶ月の実験運行時の支援のみです。あとは地域主体で、地域が利用していこうという気持ちになっていただいて、はじめて存続していくものだと考えています。行政は初動期の支援のみを行っています。

樫部委員代理 橋本山口県交通運輸対策室次長

山口県でもコミュニティーバスがうまくいかないという状況になってきており、こうし

た取組みは、声は上がるがなかなか進まない。事例として参考にしたい。また個別に教えていただきたい。

櫛本部長

高齢化が進んだ団地はたくさんあり、同様の事例はあちこちにある。成功例があるということはうれしいことです。

笹倉委員

往復利用者が26～30%。普通の交通機関なら片道乗れば帰りも乗るのが通例ではないかと思います。その原因は何でしょうか。

広島市 早志交通対策担当課長

運行ルートが周回コースとなっており、通常の通勤・通学利用とはちょっと違うと思います。高低差のある団地を周回する関係上、上りはバス利用、下りは徒歩という利用実態もあるのではないかと思います。

中山間地域の交通

～ 旅客・貨物複合輸送プロジェクトin邑南～

島根県邑南町 大田定住企画課長から「資料4」により報告

【報告概要】

・ 中国地方の中山間地域においては、厳しい採算状況におかれ、多額の補助を必要としている公共交通の今後のひとつの方向性として、旅客と貨物を同じ車両で輸送することによる効率的な交通システムが考えられる。

・ そこで、「旅客・貨物複合輸送プロジェクトin邑南町」検討委員会を立ち上げ、島根県邑南町日貫地区において、旅客と貨物の輸送ニーズの把握 デマンド型運行の対応可能性の検証 旅客と貨物の複合輸送の可能性について、実験運行の実施等調査・検討を行った。

・ 実験運行の内容

「運行経路」

日貫地区内を効率的に廻り、役場・商店がある矢上・中野地区へ直結する経路を設定

「便数」

1日2往復半（ただし、他に同地区間を結ぶスクールバス、町営バスも運行を継続）

「料金」

旅客の料金は、日貫地区内及び矢上・中野地区内100円、日貫地区から矢上・中野地区間300円、貨物の料金は、日貫地区内50円、日貫地区から矢上・中野地区間100円

「利用方法」

旅客は、利用者が交通事業者へ運行の1時間前までに電話連絡し、タクシーが指定場所へ運行（デマンド方式）

貨物は、利用者が直接商店に購入商品を電話注文すると、商店が注文された商品の入ったコンテナを商工会（物流拠点）に持ち込み、タクシーが商工会に立ち寄って注文主に配達

- ・実験の結果

利用者からは、通院・買物に大変便利であった等、デマンドサービスに対し高い評価があった。また、デマンド方式、運行範囲、ダイヤ等運行内容について特に問題はなかった。

- ・今後の展望

物流ニーズでは、宅配便において興味が示されている。また、農産品の出荷についても季節によっては利用が見込まれる。

シームレスな交通ネットワークの構築等

～ 広島電鉄取り組み事例報告 ～

広島電鉄(株)中尾常務取締役から「資料5」により報告

【報告概要】

- ・広島電鉄宮島線廿日市市役所前（平良）駅の乗継ぎ円滑化整備について

国交省の「幹線鉄道等活性化事業」と廿日市市の「街路事業」により、電車の宮島線下りホームとバス停留場を一体化し、同一ホームで電車とバスの乗継ぎを可能とした。

- ・路面電車における介護者及び幼児運賃の割引について

第1種・第2種身体障害者等の介護者及び大人又は小児に同伴される幼児の運賃割引（無賃）を拡大した。

- ・身体障害者福祉団体・幼稚園による超低床車両試乗会について

身体障害者の方々等に社会体験をしていただくことを目的に、グリーンムーバーマックスの体験試乗会を開催した。

- ・ＩＣカード共通乗車券の導入について

「広島都市圏における交通系ＩＣカード導入促進検討委員会」などで、広範囲な乗継ぎのシームレス化に向けて検討を行っている。

- ・ドルトムント電車を活用したイベント電車の運行について

- ・レトロ電車の定期運行と観光アナウンスについて

- ・「生きた交通博物館」モデルコースへの参画について

- ・湯来温泉バス往復乗車券と入浴・食事のセットについて

電車・バスを観光振興に役立てる観点から、昨年12月、車内で飲食のできるドルトムント電車を毎日運行した。また、観光ボランティアガイドによるガイドをしていただきながらの大正型電車を運行し好評であった。これまでの輸送だけが任務の交通機関ではなく楽しんでいただく交通機関も推進している。

- ・ＣＮＧバスの導入について

17年度3両導入、環境対策として、今後も導入する方向

- ・路面電車路線の付け替えによる都心へのアクセス機能強化について

路面電車の付け替え4ルート案が答申で示され、現在関係方面で検討を頂いている。実現すれば、速達性・利便性の向上が図られることとなる。

- ・路面電車優先信号および路線バスＰＴＰＳの導入拡大について

路線バスにおいて、高陽町からバスセンターまで P T P S の交通信号制御方式を導入し、6 分の時間短縮が図られた事例がある。P T P S の導入拡大により、電車・バスの走行空間改善を図り、都心へのアクセスを向上させたい。

(3) 今後のフォローアップの方針等について

事務局（企画観光部交通企画課長）から「資料 6 」により説明

【議事全体を通して】

質疑応答

山城委員

具体的な取組みの報告があり、興味をもって聞かせていただいた。こういった先導的な事業を、今後いかに普遍化していくかが重要です。先導的な事業について、中国地方の各自治体に広げていく取組みを進めていただければと感じました。

山本企画観光部長

各地にはいろいろな課題があり、様々な取組みがなされています。その取組み事例についてはいろいろな機会をとらえてご紹介しています。例えば、5 月から 6 月にかけて、各県で開催している「交通・観光施策説明会」の場で、交通関係・観光関係の事例や具体的な支援ツールも紹介しており、そういう場を通じて課題や課題の解決の方向性を共有化していければと考えています。中国運輸局として主要施策などもとりまとめ、ご提供しています。ご要望をお寄せいただければ、個別にご説明してまいりたいと考えています。

清水委員

平成 16 年 8 月の答申から初めてのフォローアップを具体的に聞かせて頂き、取組みが進んでいることについて心強く思いました。

「やぐちおもいやりタクシー」の取組みについてですが、1 日あたりの利用者が当初の約 20 人から 40 人に倍増したという報告がありました。ここで実現した取組みについてひとつのモデルとして他地域に広げていくことが可能であろうという明るい展望が持てたと思います。

この取組みにおいて、利用者はそこに生活している方で、多分元気なお年寄りに利用していただいていることと思いますが、健康面・運動面で多少不安のある方々への利用を広げていくためにはどうしたら良いのかということを経後の課題として検討していけたらと思います。

邑南町の取組みについてですが、人口あたり何%くらいの方が利用され、そのうちの程度の方が、マイカーからプロジェクトのサービスへ移行されたのかという観点で、今後の検討の中で明確にされると、この取組みを他の地域へ広げていけると思いました。

広島電鉄株式会社の取組みですが、答申に示されたすべての項目、つまりバリアフリーとかシームレス化とか、観光振興、さらに路面電車の利便性向上といったことを一手にやられており、ひとつひとつに芽が出ているという印象を持ちました。今後の発展をフォローアップを通じて検証していきたいと思っています。

櫛本部会長

今日は素晴らしいご意見をたくさんいただきました。また、先進的な取り組みとして、広島市さん、邑南町さん、広島電鉄さんからご報告をいただきました。これからのご発展を期待しています。

清水委員からのご指摘を今後の参考にしてください。

これからもフォローアップが行われていきます。審議会答申で示された事項の実現をさらにすすめ、中国地方の公共交通と観光がますます発展することを祈念します。

山本企画観光部長

貴重なご報告とご意見をいただきました。これをもとに施策の展開を関係者の方々と連携しながら進めてまいります。また、各県の一斉行政説明会の場等を通じましても各自治体や交通事業者の皆様と連携・協力しながら、課題の解決に向かってまいりたいと思います。お気づきの点等ございましたら事務局へお寄せいただければ、私ども確実にひとつひとつ対応していきたいと考えています。

6 . 閉 会